

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成22年9月29日(水) 公開授業1
児 童 5年2組(男子20名 女子20名 計40名)
指導者 榎本 隆行
日 時 平成22年9月29日(水) 公開授業2
児 童 5年1組(男子19名 女子20名 計39名)
指導者 工藤 千秋

1 単元名 人物の生き方や考え方をとらえよう

2 教材名 「わらぐつの中の神様」(杉 みき子 作)

3 単元の指導目標

【関心・意欲・態度】

物語の内容や表現に関心をもち、人物の心情の変化、考え方や生き方を進んで読もうとする。

【読むこと】

人物の行動や会話から、心情の変化や人物の考え方や生き方をとらえることができる。
(読むこと エ)

文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げることができる。
(読むこと オ)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語の内容や表現に関心をもち、進んで登場人物の心の動きや、考え方や生き方を読もうとしている。	人物の行動や会話から、心の動きを読み取ったり、人物の考え方や生き方をとらえたりしている。 文章を読んで考えたことを交流し、友達の考えたことから自分の考えを広げている。	文章の中での語句と語句との関係を理解している。

5 指導にあたって

(1) 児童について

物語文「新しい友達」では、「自力読みの観点」に沿って、内容や主人公の気持ちの変化の読み取りの学習を進めた。4年生から取り組んでいる読み取りの観点、「いつ」「場所」「登場人物」「中心人物」など、場面設定は、短時間で読み取ることができた。また、「中心人物の心情の変容」「クライマックス」「人物関係図」など思考を要する場面では、自力で読む子どもも数人いた。しかし、5年生最初の単元であるため、観点到った読み取りの方法を確認しながら学習を進めてきた。

「千年の釘にいとむ」では、ドキュメンタリーの読み方、つまり、行動や会話から中心人物の生き方を中心に読む学習を行った。子どもたちは、教材文と、ドキュメンタリー作品を読み、推薦文を書くことができた。しかし、友達と推薦文を読み合っても、自分の考えの広がりや深まりに

つなげることでできた児童は多くはない。そこで、本単元では、友達との交流を通して、自分の考えが広がっていくようにしたい。

(2) 単元について

第5・6学年における読むことの目標は「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元では、「登場人物の行動や会話から、心情の変化や人物の考え方や生き方をとらえることができる。」(内容エ)を主目標とする。

本教材は、わらぐつや神様に対して「みたぐない」「そんなの迷信でしょ」といっていたマサエが、おばあちゃんの若い頃の思い出話を聞いて、おみつさんと大工さんの温かい真心や生き方に感動し、変容していく姿を描いた作品である。中心人物マサエが、ちょうど本学年児童と同年代の設定であることや、冒頭で描かれているマサエの物の見方・考え方がこの年代の児童の一般的なそれと共通していることなどから、児童にとっては比較的抵抗なく入っていける作品である。

また、本教材は、「現在」「過去」「現在」の三部構成であり、中間の「過去」の部分を「現在」の登場人物であるおばあちゃんが語るという読者の興味を引き出す工夫がされている。対比、類比、象徴表現、比喩など多様な表現が使われている。それらの表現を手がかりに人物の考え方や生き方をとらえ、主題に迫っていくことのできる教材である。

第三次では、第二次で読み取ったことをもとに、「わらぐつの中の神様」のアフターストーリーを書く言語活動を行う。単元の見通しをもつことで、第二次の読み取りに主体性と目的意識が生まれ、より深い読み取りが行われると考える。また、アフターストーリーを読み合い交流することで、自分の考えを確かめ、広げることにもつながっていくと考える。

(3) 指導について

児童の実態や、単元を受け、本単元でつけさせたい力を、「人物の行動や会話から心情の変化、考え方や生き方をとらえること、友達との交流を通じて自分の考えを広げることができること」と考えた。そこで、本単元は、以下の方法で指導していく。

まず、単元の最初に、意欲づけと意識づけを図るために、『わらぐつの中の神様』を読んで、この話のアフターストーリーを書き、交流しよう」というゴールを示し、単元全体を見通した学習計画と、「わらぐつの中の神様」を読む目的を伝える。単元の進め方を最初に示すことで、児童が目的意識をもって本単元の学習を進めていけるようにしたい。

第二次では、児童の初発の感想をもとに、文章全体を読み進め、人物の考え方や生き方をとらえていく。その際、「自力読みの観点」の中の類比や対比を用いて、人物の行動や会話をもとにして読み取らせていきたい。マサエの心情の変化は、マサエとおばあちゃんのわらぐつや神様に対する見方を対比しながら読み、おみつさんと大工さんの二人のわらぐつの見方も対比しながら読み、おみつさんと大工さんの仕事に対する考え方は共通点を見つけながら読み取らせていく。また、その活動の中で人物の考え方や生き方もとらえ、さらに、その読み取りの後は、作品の主題へと迫りたい。また、アフターストーリーでの登場人物となるマサエやおじいちゃんの心情、考え方や生き方も意識させて読み取らせていきたい。

第三次では、第二次で読み取った人物の考え方や生き方、心情の変化を中心にしたアフターストーリーを考える活動に取り組ませる。アフターストーリーは、「わらぐつの中の神様」の続き話と設定し、人物はマサエとおじいちゃんとする。(単元の最初に、児童に伝えておく。)作品の世界からかけ離れないようにするため、アフターストーリーを構想した後の交流は、人物の心情の変化や、考え方や生き方のとらえが妥当かどうかの観点で、互いに評価させたい。そして、それをもとにしたアフターストーリーを書き、交流することで、考えの広がりへとつなげていきたい。

さらに、単元を通して、「個の読みや感想→感想の交流→個の感想の広がり」という活動を繰り返し取り入れることで、自分の考えが広がるように仕組んでいきたい。

以上の学習活動を通して、本単元の目標へと迫りたい。

7 指導計画(10時間)

過程	時間	主な学習活動	具体的評価基準【B】(評価方法)
一 次	2 時間	<p>【単元の見直しをもつ】</p> <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元全体の流れを確認する。 難語句や新出漢字の読み方を確認する。 「わらぐつの中の神様」を読み、初発の感想を書く。 	<p>【関】「わらぐつの中の神様」について興味をもち、初発の感想をもっている。(感想・ノート)</p>
		<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を交流し合い、「わらぐつの中の神様」の読みの視点を明らかにする。 場面設定をつかむために、自力読みの観点で(時・場・人物の相互関係、象徴物)について読み取る。 象徴するものや、対比した表現方法など、自力読みの観点での読み方を知る。 	<p>【読】・感想を交流し合いながら、自分と友達の感想の共通点や相違点に気づいている。</p> <p>・あらすじをつかむために、場面設定を自力で読み取っている。(発言・観察・ノート)</p>
二 次	4 時間	<p>【人物の生き方・考え方を読むために、行動や会話に着目して、対比したり、共通点を見つけたりしながら読み取る】</p> <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんとかかわりから、マサエのわらぐつに対する考えを対比して読み取る。 おじいちゃんの様子をおさえる。 	<p>【読】 マサエの行動や会話、おばあちゃんとかかわりからマサエの心情が変化したことを読み取っている。(発言・ノート・観察)</p>
		<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> おみつさんと大工さんのわらぐつに対する見方を対比して読み取る。 	<p>【読】 おみつさんや大工さんの行動・会話から、二人のわらぐつに対する見方を読み取っている。(発言・ノート・観察)</p>
		<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> おみつさんと大工さんの仕事に対する考え方を、共通点を見つけながら読み取る。 	<p>【読】 おみつさんや大工さんの行動・会話から、二人の仕事に対する考え方を読み取っている。(発言・ノート・観察)</p>
		<p>1 本時 5-2</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心人物の心情の変化をとらえ、主題について考える。 	<p>【読】 中心人物の心情の変化をとらえ、主題を読み取っている。(発言・ノート・観察)</p>
三 次	4 時間	<p>【第二次で読み取ったことをもとに、「わらぐつの中の神様」のアフターストーリーを書く】</p> <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> マサエとおじいちゃんのアフターストーリーを構想する。 	<p>【読】 読み取った人物の考え方や生き方、場面設定をもとにして、時と場、人物、象徴の場面設定、あらすじを考えている。(発言・プリント・観察)</p>
		<p>2 本時1/2 5-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想を交流する。 アフターストーリーを書く。 	<p>【読】 構想を交流し、それをもとにアフターストーリーを書いている。(プリント)</p>
		<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> アフターストーリーを読み合い、交流する。 	<p>【読】 互いの作品を読み、感想をもっている。(発言・ノート・観察)</p>

公開授業2（5年1組）

7 本時の指導（8／10時間）

（1）研究とのかかわり

第二次では、おばあちゃんとかかわりによってマサエの心情が変化したことや、人物の考え方や生き方をとらえた。本時は、第二次の人物の心情の変化、考え方や生き方の読み取りを根拠にして、アフターストーリーの構想について交流する。その交流で、第二次の読みが活かされ、その読みにもとづいたアフターストーリーの構想が確かなものになると考えた。

（2）ねらい

アフターストーリーの構想の交流をすることで、マサエとおじいちゃんの考え方や生き方、心情の流れをふまえた構想を確かなものに行うことができる。

（3）展 開

段階	学 習 活 動	教師の支援と評価（○主発問 ・ 支援）
つかむ1分	1 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時は、アフターストーリーを構想したことを確認する。
	アフターストーリーの構想を交流し、アフターストーリーを書こう。	
ふかめる	2 アフターストーリーの構想の交流をする。 （1）交流の仕方を確認する。 [根拠となるもの] ・マサエの考え方 ・マサエの心情の流れ ・文章から考えられるおじいちゃんの様子 （2）グループで交流する。 （3）妥当でないと判断された場合は、もう一度考え直す。 妥当と判断された場合は、構想をもとに、アフターストーリーを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○説明する人も、聞く人も、理由をはっきりさせて話をしたり、聞いたりしましょう。 ・説明する人には、ストーリーや会話、それを考えた根拠を話すようにさせる。 ・聞く人には、その会話が本当に妥当かどうか、根拠をもって聞くようにさせる。 ・一人ずつ自分の構想を話し、聞いた人はそれについて妥当かどうか、理由もいっしょに話すように声がけをする。 ・机間巡視でプリントを見ながら、構想が妥当かどうかの評価をする。 ・妥当でないと判断された場合は、第二次の読みの心情の流れや、人物の考え方や生き方をもう一度振り返り、修正するように声がけをする。 ・誰が話しているのか、そのときの登場人物の様子はどうか、書き方をモデル文で示すようにする。
39分	具体の評価規準 A…交流をすることで、マサエとおじいちゃんの考え方や生き方、心情の流れをふまえたアフターストーリーの構想（会話文）を確かなものに行っている。さらに、人物の様子も地の文で描写している。 B…交流をすることで、マサエとおじいちゃんの考え方や生き方、心情の流れをふまえたアフターストーリーの構想（会話文）を確かなものに行っている。 Cへの支援…アフターストーリーの構想をもう一度考える際、教科書や自分のノートを見ながら、マサエやおじいちゃんの考え方や生き方、心情の流れをもとに考えるように支援する。	

<p>まとめる5分</p>	<p>4 本時の感想を書く。</p> <p>5 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の感想を書かせる。 ・ 次時は、アフターストーリーの続きを書き、完成させることを伝える。
---------------	---------------------------------------	---

(4) 板書計画

<p style="text-align: center;">アフターストーリーの書き方</p> <p>マサエは、赤いつま皮の雪げたをかかえたまま、 「おかえんなさあい。」 とさけんで、げんかんへ飛び出していきました。 マサエは、はあはあしながら、 「おじいちゃん、この雪げた、おばあちゃんにプレゼントしたんだね。」 と、目をかがやかせて言いました。</p>	<p style="text-align: center;">考えの理由となるもの</p> <p>読み取ったマサエの考え方 マサエの心情の流れ 文章から考えられるおじいちゃんの様子</p>	<p style="text-align: center;">交流の仕方</p> <p>話す人 ・ 理由を明らかにして、考えたことを伝える。 聞く人 ・ 考えたことが妥当かどうか判断しながら聞く。</p>	<p style="text-align: center;">①</p> <p style="text-align: center;">わらぐつの中の神様</p> <p style="text-align: center;">杉 みき子</p> <p style="text-align: center;">アフターストーリーの構想を交流し、アフターストーリーを書こう。</p>
--	---	---	---

公開授業1 (5年2組)

7 本時の指導 (6 / 10時間)

(1) 研究とのかかわり

大更小学校の自力読みの観点を使い、あらすじや場面の描写などの設定をとらえ、本教材の特徴的な技法である対比や類比などの効果的な表現方法から登場人物の考え方や生き方を読み取ってきた。本時は、象徴性や暗示性の高い表現方法や内容、題名に象徴されるものをとらえることで主題に迫っていく。

(2)ねらい

中心人物の心情の変化をとらえ主題について考える。

(3)展 開

段階	学 習 活 動	教師の支援と評価 (○主発問 ・支援)
つ か む 10 分	1 中心人物を確認し、これまでの学習を振り返る。 2 本時の課題を確認する。	・一場面と三場面のマサエの考え方の違いを既習の学習掲示物を効果的に使い確かめる。
	「わらぐつの中の神様」という題名の意味について考えよう。	
ふ か め る 25 分	3 学習場面を音読する。 4 題名を考える。 5 主題を考える。	・視点を意識させながら、各々の速さで微音読させる。 ○題名は何を象徴しているのですか。 ・題名は3通りのグループ分けができることを示す。 ○神様はどこにいるのですか。 ・何を神様と言っているのか、その象徴性に気づかせる。
	<p>具体の評価規準</p> <p>A…マサエの心情の変化の要因となる、大工さんの「ものの見方」,「神様」についてしっかり押さえて、題名に象徴されている主題を考えている。</p> <p>B…中心人物の心情の変化をとらえ、題名に象徴されている主題を考えている。</p> <p>Cへの支援…「神様」という言葉が使われている会話に注目させる。「主題」「象徴」という言葉をわかりやすく説明する。</p>	
ま と め る 10 分	6 自分もっている「○○の中の神様」という題で紹介文を書く。 7 次時の予告をする。	・なぜ○○の中に神様がいるのか理由を書かせる。 ・次時は、アフターストーリーを構想することを伝える。

(4)板書計画

わらぐつの中の神様

杉 みき子

「わらぐつの中の神様」という題名の意味について
考えよう

マサエの変化

- ・「神様みたいに大事にした。」
- ・「神様がいるかもしれないね。」

題名

- ・「中心人物の名前」
- ・「中心的な事件」
- ・「象徴」

神様はどこにいるか

- ・使う人の身になって心を込めたもの中
- ・温かい心の中にあるもの中

わらぐつの中の神様

- ・使う人の身になって心を込めて作ったものの中には、
作った人の温かい心がある。

「○○の中の神様」

第5学年 単元構想表「わらぐつの中の神様」

1 単元名 人物の生き方や考え方をとらえよう

2 教材名 わらぐつの中の神様 (杉 みき子)

3 目標

○人物の行動や会話から、心情の変化や、人物の考え方や生き方をとらえることができる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げることができる。

4 つけたい力

(1) 児童の実態

- ・ 「千年の釘にいとむ」では、行動や会話から人物の生き方をとらえる学習を行った。また、その読み取った生き方を活かして、推薦文にまとめた。
- ・ 文章を読んで考えたことを発表しているが、自分の考えの広がり、深まりへとつなげる学習が不十分である。

(2) つけたい力

- ・ 人物の考え方や生き方をとらえる力 (読むこと エ)
- ・ 友達との交流を通じて、自分の考えを広げる力 (読むこと オ)

5 言語活動

読み取った場面設定や人物の考え方や生き方を活かしてアフターストーリーを書き、友達と作品を交流すること。

6 自力読みの観点

[これまでに身に付けた自力読みの観点]

- ・ 作品の内容を深く味わいながら、自分の思いや考えが伝わるようにイメージ豊かに音読すること…人物の行動に気をつけたり、会話文では心情を考えたりしながら音読する。
- ・ 設定をとらえる。
 - ・ 登場人物…登場人物は誰か、中心人物と対人物をとらえる。
 - ・ 時…場面ごとに、いつのことかとらえる。
 - ・ 場…場面ごとに、場所を確認する。
- ・ 登場人物についての自分の考え
…人物の行動や会話から考え方や生き方を読み取り、自分の考えをまとめる。

[本単元で重点的に指導する自力読みの観点]

- ・ 「鍵となるもの」に象徴される事柄
…人物以外に重要な役割を果たしているものをとらえる。
- ・ 技法 (対比, 類比) … 中心人物と対人物のかかわりから、中心人物と対人物のものの見方や考え方を対比したり、類比したりして読み取る。
- ・ 象徴性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容についての自分の考え…中心人物と対人物のかかわりあいや象徴物、題名から主題について考える。

7 単元指導計画(読むこと 10 時間)

過程	時間	主な学習活動
一 次	1	【単元の見通しをもつ】 <ul style="list-style-type: none"> 単元全体の流れを確認する。 難語句や新出漢字の読み方を確認する。 「わらぐつの中の神様」を読み，初発の感想を書く。
	1	
2 時間	1	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を交流し合い，「わらぐつの中の神様」の読みの視点を明らかにする。 場面設定をつかむために，自力読みの観点で（時・場・人物の相互関係）について読み取る。 象徴となるもの，対比読み・類比読みについて，読み方の方法を学ぶ。
二 次	1	【人物の生き方・考え方を読むために，行動や会話に着目して，対比，類比をしながら読み取る】 <ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんとかかわりから，マサエのわらぐつに対する考えを対比して読み取る。 おじいちゃんの人柄をおさえる。 おみつさんと大工さんのわらぐつに対する見方を対比して読み取る。 おみつさんと大工さんの仕事に対する考え方を類比して読み取る。 中心人物の心情の変化をとらえ，主題について考える。
	1	
	1	
	1	
4 時間	1	

三 次 4 時 間		【第2次で読み取ったことをもとに、「わらぐつの中の神様」のアフターストーリーを書く】
	1	・ アフターストーリーを構想する。
	2	・ アフターストーリーの構想を交流する。 ・ アフターストーリーを書く。
	1	・ アフターストーリーを読み合い，交流する。